

# 投票で

## あなたの思いを

### 選挙をもっと身近に届けてよう

選挙は、私たちがよりよい暮らしを願って、私たちのその思いを託す代表者を投票で選ぶ制度です。平成28年6月施行の改正公職選挙法に伴い、選挙権年齢が引き下げられ、18歳以上のすべての国民（以降、有権者）が国や自治体の選挙で投票できるようになりました。

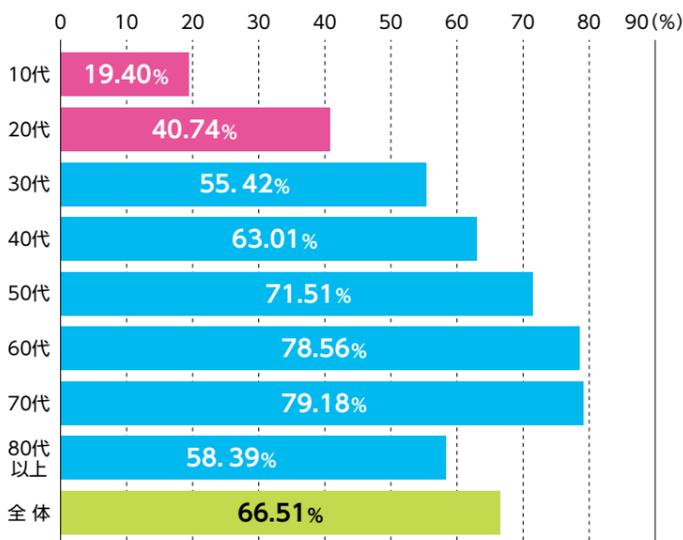
意見や不満があっても「どうせ何も変わらない」などと考えて選挙に行かない人もいると思います。ですが、その一票が集まれば思いは形になります。今年「統一地方選挙」の年で、申間市では「宮崎県議会申間市選出議員選挙」「申間市議会議員選挙」が行われます。私たちの生活や社会をよりよくしていくために、あなたの「おもい」「思い」「重い」一票を届けましょう。

#### 若く世代の声を

若い世代の声をより政治に反映していくために選挙権年齢が引き下げられましたが、全国的にも若い世代の投票率は低い状況です。では本市の状況はどうでしょうか。平成31年4月に

10、20代の投票率が他の世代と比べて大きく低くなっており、本市においても若者の「政治・選挙への関心度」は低い状況です。このまま進んでしまうと、若者向けの政策が少なくなつて若い世代が暮らしにくい社会になってしまいかもしれません。すべての人が暮らしやすい社会の実現に向けて、若い世代の投票（声）は非常に重要です。

世代別の投票率



平成31年4月執行「申間市議会議員選挙」



高校生の選挙に対するきもち

18歳になり、有権者となった高校3年生。そこで、高校生の選挙に対するリアルな意見を求めて、福島高校元生徒会の皆さんに話を聞きました。

元生徒会長 河野一愛さん



元生徒会副会長 田中汐音さん



元総務 中村淳之助さん



じゅんのすけ：昨年の県知事選挙のテレビ速報で、どこかの地域は候補者同士の接戦の情報が出て一票の大事さを感じた。若者の投票率を上げるために、若者が投票したいと思える政策を打ち出してくれたらいいな。

——若者が思う今後の申間に求めたいこと

いちあ：街灯をもっと増やしてほしい。地域によっては暗い所があって、登下校が不安という声を聞く。安心して生活できる申間になってほしい。  
しおん：商店街をもっと活性化させてほしい。企業を誘致して空き家をオフィスとして活用するのは。働く場所があれば若者も申間に残りたいと思う。あと遊ぶ場所も。下の学年の子たちはよくスケボーをしているので、スケボー場があったらいいんじゃないかと思う。  
じゅんのすけ：甘藷農家は基腐病の影響で別の仕事に就いている話をちらほら聞く。甘藷は申間の誇り。その誇りを守っていく政策をさらに打ち出してほしい。

——ズバリ、昨年の選挙は投票に行った？

いちあ：家族と一緒にきました。しおん：私も家族で行きました。じゅんのすけ：同じく。投票所入場券のがきが来たときに家族と今年18歳だから行かないとねって話をしてみました。

——近年、若い世代の投票率が低下しているがなぜだと思いますか？

いちあ：この前の選挙でも「政治のことがよく分からないから行かない」という人もいたよね。政治や選挙に触れる機会が少ないのも一つの要因なのかな。しおん：投票しても自分たちには関係がないと思う人が多いと思う。近年の日本は少子高齢化でお年寄り向けの政策が多いと感じる。それは私たち若者自身が情報を得られていないのもあると思うけど。

——どうしたら投票率は上がると思いますか？

いちあ：若者がよく情報を得るSNSで、若者に向けた政策をハッキリ打ち出してくれたら興味を持つと思う。私たちも生徒会活動の際に「今日の生徒会はこれをしました」とSNSで情報発信したら多くの生徒に見ても

らえた。

しおん：SNSだったらいつでも見られるよね。生活が目に見えて豊かになれる政策があれば興味を持てると思う。そして継続的に発信している誠実な人や、確実に政策を実行できる人に投票したいかな。

じゅんのすけ：新聞などの紙媒体は、難しい表現もあったりして若者には理解しづらいかも。ティックトックやInstagramなどのSNSで若者にも分かりやすく発信してもらえたら選挙が身近に感じられていいと思う。SNSの影響力は大きいんじゃないのかな。

——若者が思う今後の選挙で期待したいこと

いちあ：昨年の県知事選挙はテレビなどで情報が分かったが、市議選はポスターくらいしか見ない。SNSを活用して若者向けの情報発信してもらえたら情報が分かるしいいな。しおん：市議選は正直誰に投票していいか分からない。SNSでも継続的に活動状況を発信してもらえたら、何をしているか分かるし投票の判断材料になるかな。